

令和4年度 「みえ現場 de 県議会」 人口減少対策～移住による地域おこし～ 実施概要

1 日時・場所 令和4年11月17日(木) 13時30分～16時00分
グリーンプラザおおだい 多目的ホール

2 テーマ 「人口減少対策～移住による地域おこし～」

三重県では、年々加速する人口減少問題に取り組むため、令和4年度を「人口減少対策元年」として推進体制の整備を行っています。人口減少は、都市、集落機能や地域活力の低下といった様々な影響があることから、対策として県内の各市町では様々な取組がされています。その一つに移住の促進による地域活性化があり、県としても市町の取組を把握し、連携して施策を進めていくことが一層重要となっています。

また、8月22日に開催した「みえ高校生県議会」においても、三重県の地域活性化には移住者の増加が必要なことや、実際に移住してもらうための支援策について提案がありました。

そこで今回は、「人口減少対策」をテーマに、移住政策や地域おこし等の活動を通じて地域を盛り上げている方々と、人口が減少する中、どう地域活力を高めていくか、取組の実情を踏まえて意見交換を行い、今後の議会での議論に反映させていきます。

3 参加者等

○関係者の方

- | | | |
|-----------------------------|------|------|
| ・大台町役場 企画課 | 6人 | |
| | みやもと | ほまれ |
| | 宮本 | 誉 氏 |
| ・県立昴学園高等学校 | やまだ | よしたけ |
| | 山田 | 能健 氏 |
| ・一般社団法人AWAプロジェクト 理事 | こばやし | けんいち |
| | 小林 | 建一 氏 |
| ・株式会社V e r d e大台ツーリズム 代表取締役 | のだ | あやこ |
| | 野田 | 綾子 氏 |
| ・大台町観光協会 | にしぐち | まみ |
| | 西口 | 茉実 氏 |
| ・大台町ふるさと案内人の会 会長 | つつい | さとし |
| | 筒井 | 敏 氏 |

○県議会議員（下線は広聴広報会議委員）

10人

議長 前野 和美 座長(副議長) 藤田 宜三
総務地域連携デジタル社会推進常任委員長 石垣 智矢
戦略企画雇用経済常任副委員長 川口 円
委員 日沖 正信 委員 谷川 孝栄 委員 濱井 初男
委員 山本 里香 委員 山崎 博 委員 小林 貴虎

○傍聴者

9人

4 プログラム

- 1 開会あいさつ
- 2 参加者の紹介
- 3 「状況シート」の説明
- 4 意見交換
- 5 閉会あいさつ

5 主な意見等

《人口減少下における地域の課題、今後の展望等》

- (1) 大台町役場では、空き家の改修の補助金は、令和4年度予算として1軒あたり100万円で7軒分と調整をしており、現在申請が上がってきているのが、1軒となっている。
- (2) 空き家を誰も引き継がずに放置されていることが多く、最終的に解体しないといけなくなる。そういう家を増やさないように、空き家になる前の対策や、空き家になってすぐの活用ができるよう取り組んでいきたい。
- (3) 耐震を含めての空き家の改修のための補助金は、大台町だと年に1軒ないし2軒の枠しかない。
- (4) インспекションに関しては、町から予算を取っていただいて、年間25件を町内の方に無料で受けていただくようにしたところ、家の状況の評価が分かったことで、家を持っている方も、家を持ちたい、買いたいと考えている方も活発になってきた。
- (5) 10年ほど前は空き家バンク制度がまだ成熟しておらず、30年以上暮らす家と考えると自治体の物件は信用できなかった。
- (6) 子どもの居場所づくりということで、地域や自然を生かした行事を開催しており、子どもたちと親が興味を持っていただければ、町の良さも分かって、関心を持っていただければいいと思うので、人材育成を中心に、学校行事との関わりをもっとしっかりとやっていきたい。
- (7) ずっと地域に住んでいる人が一番地域のことがよく分かっているので、何とかそういう人が中心になって活動してほしい。ふるさと案内人の会へ入るとかではなく、行事に参加をし、体験して、大台町のいいところを見にきてほしいと考えている。
- (8) 大台町は住んでいると温かさや人情が残っていて、高校生には地元の人と関わって、人付き合いを知ってもらいたいと思っている。一方、お年寄りの方に聞くと、この先にあまり希望を持ってない、変化を望んでないという感じがあり、地元にいる高校生がもっと上の年代の方と関わっていけるような関係を持っていけたら楽しいと思う。
- (9) 昴学園高等学校では、県外から留学する地域みらい留学と、高校2年生のときだけ1年間だけ留学する地域みらい留学365という事業に参加しているが、参加するのにお金がかかる。予算は、今は県教育委員会から出してもらってるが、地域みらい留学365は内閣府の関係人口増加のための事業で5年間の期限付きになっており、なくなったあとも事業を継続できるかがとても心配。学校の教員だけでは生徒募集に手が回らず、予算がなくなってから学校だけでやってくれとなると難しいと思う。

- (10) ネットショップを使ったら買い物には困る事はそんなにないが、病院がちょっと遠いなど、困ったことをすべて分かっていた上で移住を考えている人が来てもらわないと定着しないと思う。現在、観光情報の発信をしているが、田舎で暮らしたいと思っている方は、まず遊びに行っておんなところに住んでみたいなど最終的に決めると思うので、観光で大台町の名前を知ってもらうことが一番かなと考えて行動している。
- (11) 地域の方に話を聞くと、大台町ってなんにもない場所だよと言われる。旧宮川村と旧大台町が合併しているので、それぞれの町に住んでいる人たちは、それぞれのところについて知らないということがあつ。地域の人にも魅力を見つけてもらう試みにはどんどん参加していただいて、いい町だということをつ改めて知ってもらつて、一緒に情報発信していただけたらなと思つている。
- (12) ガイドツアーを中心に商品販売をしているが、人材の育成が課題である。大台町は人口8600人ほどで、ガイドの仕事をやりたい人は本当に稀なので、町内だけで考えていては、仕事は繋いでいけない。
- (13) 県の実施しているアウトドアヤングサポーター育成事業のお手伝いさせてもらっている折に関わつてくれた学生が、非常にこの地域とガイドツアーの仕事にすごく興味があると言つてくれて、大学を一年間休学してガイドツアーを回してくれた。こういう特殊事例を一つずつ積み重ねることが、地域や移住には必要なのかなと思つている。
- (14) 三重県の南部地域に住んでいるとすごくうらやましいなと思つるのは、県北部には大学があり、若者が多くいること。三重県の北部に住んでいる若者と、南部にある自然や人、会社を繋ぐような事業を県にも応援してもらいたいと思つている。
- (15) 長期滞在用のゲストハウスに、アドレスという長期滞在のサブスクリプションサービスを登録しており、アドレスに解放している部屋はずつと埋まっている状態で、日本一周をする方や、コロナ禍で出勤しなくても仕事ができるIT会社の方などが来てくれているが、その方たちはこの地域の定住や移住に繋がるのかはまだまだ全然分からない。
- (16) 地域おこし協力隊出身者としては、卒業後に仕事なくなる点がつ定住に繋がらない原因かなと感じる。協力隊は3年なので、家を買わずに賃貸で住んでいて、元々空き家で年数も経つてから改修をするんじゃなく引越そうつていうので、また違うところに行かれるのもあるんじゃないかと思つている。
- (17) 地域おこし協力隊で来てそのまま残るかは仕事の内容にもよつと思つ。和菓子屋さんのように技術を身につけてその地でやつていくというものなら残つていけるとは思つが、学校関係で商売とは違う仕事をしていると、支援があるときには活動できるが、3年間で任期が終つると仕事なくなり、別の仕事か、他の地域で同じような仕事をしている学校があるか探さないといけなくなる。
- (18) 大台町に定住してもらうために目標にしているのは、行きたい町から住みたい町へということ。大台町は環境もいいし住みやすい、子育てするにはいいところだという意見もいただいたが、一方で地元の仕事がなく、他市町に勤務し、大台町に住んで通ってもらう形も考えていけない。

- (19) アウトドアのツアーは、日帰りでも楽しめる、150分以内で来れる大阪と愛知のような地域を市場と考えている。また、熊野ツーリズムビューローのインバウンドの取組は素晴らしく、参考にしたい。
- (20) 視察で行った高知県の梶原町は、全国的に移住者が多く集まっている地域だが、なぜ移住したかについてのアンケート結果の第1位が、住む住宅がすぐ見つかったからだった。空き家はどんどん増えているが、すぐに活用できる空き家はすごく少ないため、住むことのできる空き家を整備し提供できる環境ができたらいいなと思う。
- (21) 昴学園高等学校は、県外にも生徒の募集活動をしており、今年も180件以上の資料請求が来ている。PR活動をするのにお金がかかるため、活動支援をしていただけると嬉しい。三重県は都会の子が行きやすい場所で、県外からの問い合わせも多く、県外の学生が安心して学べるような住宅等の環境づくりにもお金が回せるとありがたい。
- (22) 県道603号がよく通行止めになる。桜の時期や紅葉のシーズンで通る観光客もいて、生活道路ではなくても大台町の魅力を作る一つの条件だと思うので、県道の整備についても考えてほしい。

令和4年度 「みえ現場 de 県議会」
人口減少対策 ～移住による地域おこし～

アンケート結果

○当日の参加者・傍聴者 25人

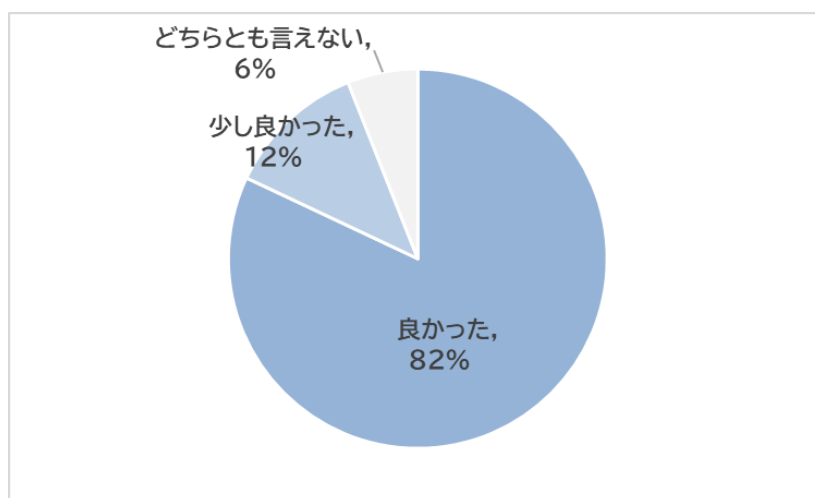
《内訳》・意見交換参加者 16人（関係者6人、三重県議会議員10人）
・傍聴者 9人

○アンケート回答者 17人

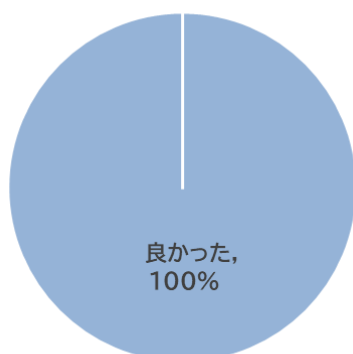
《内訳》・意見交換参加者 10人（回答率 62%）
・傍聴者 7人（回答率 78%）

Q1 本日の会議の感想をお聞かせください

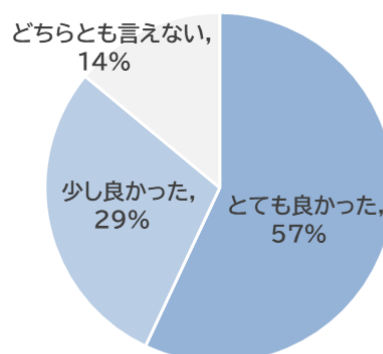
<全体（参加者+傍聴者）>



<参加者>



<傍聴者>

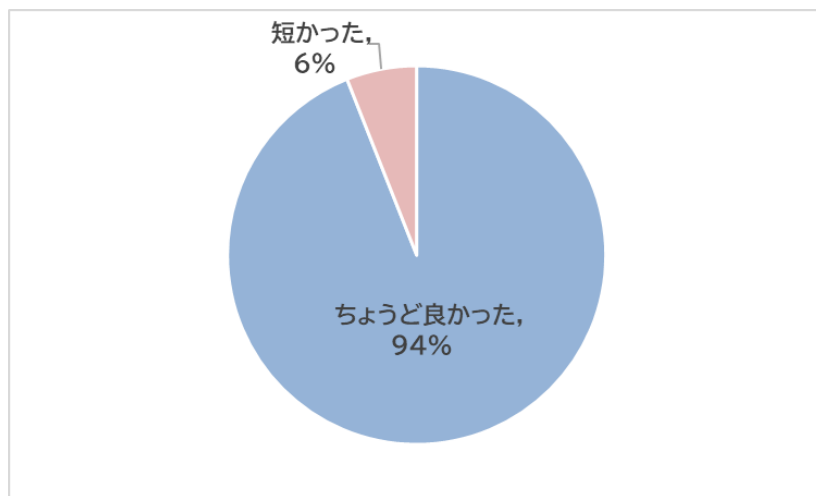


Q2 本日の会議について、お気づきの点がございましたらご記入ください。

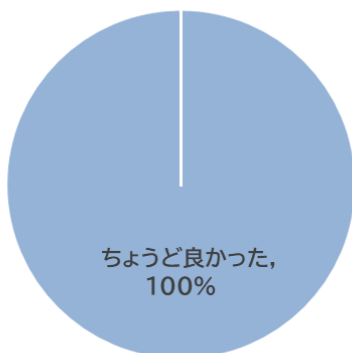
- 県会議員さんとの会合は初めてでした。今後も時々あってもよいのでは。
- 意見を直接お聞きいただけて、取り組みのPRにもなりました。
- 意見を伝えることができたこと。
- ほかの参加者の意見を聞くことが出来ました。
- 現場の具体的な経験がわかりやすかった。生の声はたいへん貴重であり、役に立つ意見です。
- 我が町のスペシャリストの思いが県議さんに伝わってよかった。あとは政策にかえて実現できればなおいいと思いました。
- 教育が絡んでくると、「稼ぐ地方」「儲ける地方」の側面が薄れてしまう。
- 参加者の皆様の説明が公式見解感が強くて、優等生な方々ばかりだった事。
- 議員以外の参加者1人1人がしっかりした考えをもっていたのが、よくわかった。

Q3 本日の会議の時間の長さについて、適切であったかお聞かせください。

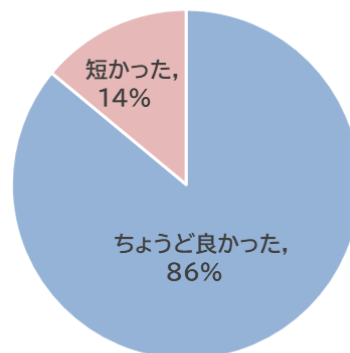
<全体（参加者+傍聴者）>



<参加者>



<傍聴者>



Q 4 今後の「みえ現場 de 県議会」の開催テーマ・開催場所などについて、ご提案がございましたらご記入ください。

- 農業の今後について
- 教育、子育て
- 県南部方面をいかに活性化していくか
- 今後を身近な話題をテーマに、県内さまざまな地域でも開催していただきたい
- 未開催の場所を重点化してほしい